

# Topic 66

## 米国ユタ州とアイダホ州の VCP

- 1) こんなところ
- 2) VCP (自主浄化プログラム)

---

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。

今週もブラウンフィールドの前に「最近の環境ニュース」のご紹介です。

### ■氷河後退が加速、コミュニティーや飲料水が脅かされています！

先週 2 月 15 日、米国サンフランシスコで開催された米国科学振興協会 (Triple A-S) 年次会議の記者会見において、世界各地の氷河溶解により氷河を飲料水の供給源としている地域が危険にさらされている、との発表がありました。詳細にご興味がある方は以下のウェブサイトをご覧ください。オハイオ州立大学の氷河学者トンプソン博士が提供した写真も載っています。

[http://www.aaas.org/news/releases/2007/0216am\\_glaciers.shtml](http://www.aaas.org/news/releases/2007/0216am_glaciers.shtml)

(米国科学振興協会 : Triple A-S)

日本で生活している私たちにとって、氷河後退は身近に感じる自然災害ではありません。なんだか遠い国のお話聞こえます。むしろ地震や洪水のほうが気になりますね。いずれにしても被災時には飲み水の確保が重要であることは言うまでもありません。今使っていないから地下水が汚染されていても大丈夫、といっていると、いざ！というときに地下水は人命救済の味方になってくれないばかりか、事態を悪化させる原因にもなりかねません。

私たちにできることは何でしょうか。これから発生しうる地下水汚染を未然に防止すること、既存の汚染を浄化すること、そしてなんらかの理由で技術浄化ができない場合は制度的管理 (Institutional controls) を利用した長期的な管理を実施していくこと。そう環境メルマは考えています。

### 1) こんなところ

ユタ州は米国中西部、ロッキー山脈の西側に位置しています。米国へ加入したのは 1896 年 1 月 4 日 (39 番目)。総人口は約 240 万人 (2005)、人口密度は約 11 人/k m<sup>2</sup>。州都および州最大都市はソルトレークシティです。2002 年には冬季オリンピックが開催されたことはまだ記憶に新しいところではないでしょうか。

ユタといえばモルモン教の州。州人口の約 7 割がモルモン教を信仰しています。それから世界的に有名なスキーリゾートがあることで有名です。積雪量が多いだけでなくその雪質がすばら

しい～。スキーヤーやスノーボーダーにとってありがたい場所ですね。鉱山資源にも恵まれており、殊に金の産出は全米1位2位を争うほどです。

ユタ州から北上するとそこはアイダホ州。米国加入は1890年7月3日(43番目)。州総人口は約140万人(2005)、人口密度は約6人/km<sup>2</sup>。州都および州最大都市はボイジです。

アイダホといえば「アイダホポテト」。そうですジャガイモの世界的産地です。同州の自動車ナンバープレートを見ると「FAMOUS POTATOS」と書いてあって、地元名産品を主張するパワーや愛嬌を感じたりします。こんな話を耳にしたこともあります。「アイダホのお金持ちは誰だか知ってる？マクドナルドにジャガイモを卸している会社の社長さ」。ホントなのでしょうかね？

同州の主要産業はもちろん農業。それから林業、鉱業も盛んです。近年は観光業やIT産業の発展がみられるようです。

## 2) VCP (自主浄化プログラム)

さて、ここからは本題のブラウンフィールドです。

### ■ユタ州

1997年、ユタ州は汚染サイトの自主浄化促進とブラウンフィールド再開発支援を目的にVCPを設立しました。同州のプログラムは以下の要素で構成されています。

- ・ リスクベース浄化が実施できる
- ・ プログラムにのっとって浄化を終了した後は、州政府がプログラム登録者に対して環境責任免除を保証する「浄化終了証書」を発行します。
- ・ サイト汚染の環境責任免除は、将来の土地所有者へ相続できます。

但し、プログラム登録条件は、原則、非汚染責任者となっています。また財政インセンティブは開発されていません。それもあってか、プログラム設立から現在まで数十件の登録実績に留まっています。

### ■アイダホ州

アイダホ州では1996年に施行された「土地修繕法」のもと、ブラウンフィールドの浄化修繕を推進する目的でVCPが設立されました。が、これまでプログラムに登録したサイトは20件あるかないかです。

同州のプログラムには税控除の仕組み(浄化修復によって土地の価格が上がったら、その差額の50%にあたる金額を課税ベースから、7年を限度に控除してよい)があります。どれくらいのメリットがあるのか数字をつかって遊んでみましょう。

例えば、

2010年1月1日の土地の価格 (浄化修復後)	20,000,000円
2009年1月1日の土地の価格 (浄化前)	12,500,000円
浄化修復による土地価格の上昇	7,500,000円

控除対象額（土地価格上昇分の 50%） 3,750,000 円

ここで、固定資産税を 1.5%と任意設定すると、

1 年あたりの控除額は 56,250 円

アイダホでは、これが 7 年間継続されるルールなので、控除額の合計は、 393,750 円

プログラムの登録に 250 ドル、そして最終的には数千ドル程度の費用を支払うことになるかもしれないということを考えると、この程度の控除によって自主的に浄化しよう！というモチベーションが本当に生じるのか？といった議論がなされています。

来週はケンタッキー州のブラウンフィールドをみてみましょう。

みなさま、よいご週末をお過ごしください。

Thanks God It's Friday!

Thanks God It's Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 ([t.sato@ers-co.jp](mailto:t.sato@ers-co.jp))

---

坂野のつけたし ([banno@ers-co.jp](mailto:banno@ers-co.jp))

Nickname -▼ユタ州：「The Beehive State／The Deseret State／The Mormon State（1847 年以降、この地に入植したモルモン教徒は、Deseret（デセレット）という名の国（州）をつくろうとしました。Deseret とはモルモン経で beehive（ハチの巣）のこと。地道に一生懸命働き、自分たちのことは自分たちです、という精神が表れているそうです）「The Salt Lake State（海よりも 3 から 5 倍ほど塩分が濃い）」▼アイダホ州：「The Gem State／Gem of the Mountains（アイダホは、地元インディアンの言葉で「宝石のある山」を意味する・・・という実しやかな作り話がかつてあったそうです。1 月の誕生石であるガーネットの採掘高は全米一となっています）」「The Potato State（ジャガイモの州・・・たしかに Idaho Falls で食べた蒸かしジャガイモはおいしかったですが、このニックネームは坂野の作り話です）」

事例紹介 -Salt Lake City（ソルトレークシティ）：19 世紀、鉱山・鉄道ブームに乗かって、鉄道産業、重工業、廃品回収業、倉庫業などが活況を呈していた区画が、街のメインストリートから西に 3 ブロックしか離れていないところにありました。広さは全部で 260 万㎡（東京ドーム 55.6 個分）。20 世紀になり、いつしか “No man’s land” となってしまったところに転機が訪れたのは 1995 年。IOC 総会でソルトレークシティが 2002 年の冬季オリンピックの開催地に決定したことをうけ、まず 1996 年に連邦環境保護局（EPA）から、アセスメントのために 20 万ドルの助成金が、さらに、2000 年 3 月には追加で 20 万ドルの助成金を EPA からうけ、またさらに 50 万ドルを、連邦、州、市、民間の全面的バックアップとあわせてうけることとなります。後者は、

これまでにいくつか事例紹介した Showcase Community というプログラムにしたがって行われました。

再開発はまず、よい立地のところから始まりました。375 百万ドル（約 450 億円）をかけたプロジェクト（約 12 万㎡）により、商業施設、レストラン、オフィス、住宅、シネコンなどができました。その横の 500 世帯分の住宅開発も順調にすすみ、公園や散策道、また地域交通のハブとなる建物も整備されています。オリンピックのときにはメディア村がここに設置されました。一方、新たに創出される雇用は 7300 人、経済活動から得られる税金は年間 20 百万円（約 24 億円）、加えて 5 百万ドル（約 6 億円）の資産税増が見込まれています。

土壌汚染はどうだったのか？調査の結果、広大な敷地全体の 53%は、そのまま何もしないで住宅や公園に利用できるレベル、83%（53%+30%）は商工業用途なら浄化無しで利用できるレベルでした。今後の開発内容次第ですが、総修復費用は 400 万ドルから 1650 万ドル（4.8 億円～20 億円）になるだろうということです。

▼参考情報

<http://maps.google.co.jp/maps?f=q&hl=ja&q=salt+lake+city&ie=UTF8&t=h&om=1&z=16&ll=40.767737,-111.90249&spn=0.007541,0.021501&iwloc=addr> （Google Map Gatewayプロジェクト：ひし形の建物の西側にある縦長方形の区画が再開発された場所（約 12 万㎡）です）

[http://www.epa.gov/brownfields/pdf/ss\\_salt.pdf](http://www.epa.gov/brownfields/pdf/ss_salt.pdf) （EPAのサクセスストーリーより）

<http://www.shopthegateway.com/photos.html> （いまはこうなっています。写真が 12 枚）

<http://www.slcgov.com/ced/rda/brownfields/Text%20links/gateway.pdf> （再開発のマスタープラン）